

事業名

地域で育み、地域で支える 田原力

目標

教育力を高め、地域の力が子どもたちに生きる地域を目指す

1. 取組の視点

田原地区は豊かな自然や伝統文化が地域の方の努力で現在にまで引き継がれてきている地域です。本教育協議会では「地域で育み、地域で支える 田原力」のスローガンのもと、これまで取り組んできた活動を継続させることで地域として学校を支援する体制を構築させつつ、さらに地域が学校の活動に参画する「双方向の連携・協働」を目指すことを視点に置いて取組を進めていきたいと考えます。地域と学校が手を携え、「田原が好き」「田原に誇りを持てる」子どもの育成に全力をあげます。

また、子どもたちが安全に学校教育を受けられる環境を整え、今まで以上に学校力、地域力、教師力をアップさせていきたいと考えています。



2. 取組の概要

【地域に誇りをもつ取組の継続】

「田原の子どもたちは田原に住むすべての人で育てる」の考えのもと、毎日の「交通安全立哨指導」や「田原ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動、また地域活性化を目指した「田原体育まつり」等を実施しています。特に「どんごが丘整美作業」と銘打った奉仕作業は地域と学校の繋がりをを感じる取組です。毎年夏休みを利用して児童生徒全員と保護者、地域教育協議会、有志の方々80名ほどの協力を得て学校の校内外の環境整備を行っています。

また田原小中学校は「文化遺産に学び、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることでできる子どもの育成」を目指しています。その目標を実現するひとつは、地域に伝わる文化や伝統

を次世代に伝えていくことであると考え、伝統芸能保存会を中心に、田原幼稚園、小中学校合同で祭文踊り・千本づき(餅つき)など地域に伝わる文化や伝統を子どもたちに伝えていきます。また地域の伝統産業を指導するためゲストティーチャーとして協力しています。



【地域連携の広がりと深化】

今年度は学校との連携を広げ、深めるために地域から小中一貫教育全国サミットやコミュニティスクール全国大会等に参加しました。

3. 成果と課題

田原地区は以前から学校、幼稚園とともに歩んできた地域であり、これまでの取組を通して地域には「学校づくりへの意識」が深まってきたように思われます。特に今年度は「双方向の連携」ということで地域と学校がさらに連携を深めることができました。具体的には公民館活動や地域の活動に積極的に参加する児童生徒の姿が見られ、また小中一貫教育全国サミットやコミュニティスクール全国大会に参加することで今後の地域と学校との連携の在り方が見えてきました。



来年度に向けての課題として、この活動の目的、意義を

理解いただくために広報活動をさらに進めると地域の方に「協力から連携へ」「参加から参画」の意識をもっていただき、より多くの方が参加できる体制を構築していく必要があると考えます。

事業名

未来に夢つなぐ一貫教育 TAWARA

目標

9年間の学びを再構築し、将来の自己実現につなげる

1. 取組の視点

小中一貫教育も8年目を迎え、地域にも本校が目指す9年間の学びの連続性・継続性を生かした教育が浸透してきました。これまでも地域の方に学校活動の支援をお願いしてきましたが、今年度は特に「新しい学習プランの構築」と銘打って地域の方に日常の学習活動に継続的に支援いただく体制をつくっていききたいと考えています。また今年度は昨年を引き続き、本校が大切にしているキャリア教育を意識した活動も取り入れていききたいと考えます。

2. 取組の概要

【小中一貫教育の特性を生かした取組】

～新しい学習プランの構築～

田原小中学校は前中後期の各ブロックの活動に重きを置き、上の学年にモデルを持つことを意識した活動を行ってきました。その活動は学校行事や各ブロッ



クの行事だけではなく、日常生活のあらゆる場面で行っています。またブロックの枠をはずした異年齢集団による活動も豊かな心を育てる活動として定着しています。今年度は「どんごが丘フェスティバル」と銘打って生徒が企画し、運営した文化祭を行いました。その文化祭は子どもたちが中心となって地域に呼びかけを行い、当日は地域の



方に作っていただいた食事を地域の方、保護者とともにいただきました。また今年度から体育の授業に武道が組み入れられ、本校では「剣道」の授業に継続的に学習支援ボランティアとして地域の方が来てくださる等、日常の活動の中に地域の支援が入る取組が始まりました。

【未来に夢つなぐ取組～キャリア教育の進展～】

9年間の学びの連続性、継続性は将来に夢を持つことへとつながっていきます。田原小中学校は上の学年



に自分のモデルを持たせることを意識させながら諸行事や学習活動に取り組んできました。いわゆるキャリア教育を考えながらの取組です。今年度は「情報科」との関連で奈良先端技術大学院大学を訪問させていただき、最先端の情報に触れたり、英会話科との関連で一条高校外国語科との交流を行ない、英会話への興味を深めることができました。

3. 成果と課題

本校の課題でもある「人との関わりの少なさ」は上記の活動を通して少しずつではありますが、解消してきています。この事業を通して様々な人と接する機会を得て、話を聞くことで様々な価値観があることを知り、それが将来に向けて自分の進路を考えるきっかけとなっていることは成果です。次年度は児童生徒会を中心として様々な場面で地域との交流を進めていきたいと考えています。具体的には公民館活動への参加や学校行事に地域の方が参画していただけるよう休日の開催や地域の方に出演していただく企画をしています。

事業名

田原を学び、田原に学ぶ「未来にはばたけ田原っ子」

目標

自然豊かな田原を愛し、伝統文化を次世代に引き継ぐ

1. 取組の視点

田原小学校は児童数39名の小規模の学校です。しかし地域には県無形文化財の「祭文」を始め、伝統工芸の「奈良晒」、また地域の産業でもある「お茶の栽培」さらには今年、古事記編纂1300年で注目をあびた「太安万侶」の墓等、地域を誇れるものが数多くあります。

本校ではこれらの地域遺産を題材として地域とのつながりを持ち、「ひと・もの・こと」の関わりを通して、ふるさとや自然を愛する心を育てる取組を進めることが大切であると考えます。また児童が主体的に地域に貢献できる体制づくりを考えていきます。

2. 取組の概要

【伝統文化の継承】、

地域に伝わる文化や伝統を次世代に受け継ぎ、伝えていくためにも地域の方々の力は欠かせないと考えられています。

子どもたちにも興味を持って取り組めるような体験



的な活動を中心に、保護者・地域・お年寄りの方などから伝統芸能や、伝統文化について教えていただく機会をもっています。具体的には、幼小中合同運動会に向けての「祭文踊り」や「祭文語り」の練習、また本番での「祭文踊り」、「新年集会」での千本づきによる餅つき等が挙げられます。

【地域との繋がりを大切にした取組】

本校では総合的な学習の時間等を活用して地域の方にきていただき、様々な取組を行なってい

ます。例えば「ふれあい夢花壇」と銘打った環境整備活動では地域の方とともに花を植え、花のことについていろいろと教えていただいたり、田原の産業でもある「お茶」については地域の方に講師としてきて



いただき、お茶についていろいろと教えていただきました。また「どんごが丘フェスティバル」と銘打った文化祭では自分たちが学んできたことを地域の方に知ってもらう発表を行ないました。さらに学んだことをパンフレットや模造紙にまとめ、公民館に置かせていただいたり、発表会にきていただいたりすることで発信してきました。

3. 成果と課題

これまでも様々な体験活動を通して、田原の伝統芸能や文化について教えていただくことが多かったのですが、今年度は



学んだことを地域に発信していく活動を展開することができました。そのことで改めて田原のよさに気づき、文化や伝統を守り、郷土を大切にしていこうという気持ちが育ってきているのではないかと考えます。またこれまでの取組から児童自身が地域との繋がり的重要性を感じ、児童生徒会を中心として様々な場面での交流を企画しようとしています。具体的には公民館活動に参加したり、自らが地域に出かけていき、聞き取りをさせていただいたり連携の体制が整ってきています。次年度はこの体制をさらに深めていければと考えます。

事業名

田原トゥインクルプラン

目 標

地域の方々の協力を得て、田原地区ならではの地域の良さを感じられる活動を行う。

1. 取組の視点

- ・ “わくわく・ドキドキ・やった” と目を輝やかせて活動できる環境作りをする中で、子どものやる気や根気を培っていきます。
- ・ 共感したり、認めたり、子どもの良い面を“のびのびの木”などの掲示物を使って視覚に訴えるようにしたりして、自尊感情を育てます。
- ・ 様々な描画材料を使ってダイナミックに活動し、表現する喜びを味わいます。
- ・ 栽培活動を通して、育てる楽しさや自然の不思議さ、収穫の喜び、食への関心を育てます。
- ・ 地域の文化に触れ、様々な感動体験をする中で、地域の方々との温かい触れ合いをします。

2. 取組の概要

本年度は、年長児2名、年少児2名、計4名のスタートとなりました。個人の思いを尊重しながら人とかかわりが育つ環境構成に努めました。他園との定期的な交流、未就園児、小中学生、地域の方々とかかわりを年間計画に位置づけ活動しました。また年長・年少合同保育を行っているので発達の違いを考慮した保育の在り方を工夫し日々取り組みました。そうすることで、子どもは、毎日喜んで遊び、明日への期待をもって降園するようになりました。また、自尊感情を育む環



境を整えたことで“自分っていいな”と行って行動している姿が、多くなってきました。

る姿が、多くなってきました。



表現活動では、のびのびと表現できるように絵具を多めに購入し、色塗り遊びをしました。そうすることで、描きたいものを大きく表現し、描く喜びを味わっていました。また、日頃の遊びの中で生まれた作品を“子ども冒険の国”として展示した作品展では、様々な感想を見ることができ、自尊感情の助長に繋がったと思います。栽培活動においても、子どもと共に考え、野菜苗や種を植えました。田圃に住みついた生き物・収穫など感動の連続でした。稲は田圃作りから始め、田植えや稲刈り、脱穀などを楽しみ、五合のお米を皆でいただき、食への関心も出てきています。また地域の人材・文化・自然などにかかわり、せんべい教室、田原太鼓体験、りんご狩り、あじさい園・ならの郷との交流など、多様な経験ができました。

3. 成果と課題

遊びや、自然・人間関係に関する環境の充実を図り、子どもの成長を見守ってきました。子どもの目が輝き、楽しかった話を自分からすることが多くなりました。また自尊感情の芽生えも培われ、子ども達は、共感に対して素直に喜び、多くの人の前でインタビューされても、自分らしく表現できるようになってきています。